

# 日本超音波医学会第 94 回学術集会を終えて

会長 飯島 尋子

(兵庫医科大学消化器内科学 / 超音波センター)

## 1. はじめに

2021年5月21日(金)から23日(日)の3日間にわたり、神戸ポートピアホテルに於いて、日本超音波医学会第94回学術集会を開催させて頂きました。新型コロナウイルス感染症にともなう政府の緊急事態宣言が開催1週間前に再発令され、借りていた公的会場は閉鎖されました。多くの制約が強られる中、嚴重な感染対策のもと本学術集会で初の試みとなるハイブリッド開催で実施致しました。予期せぬ開催形式の変更などで大変苦勞致しましたが、参加者は現地・Web(オンデマンド視聴)を合わせて5,016名、オンデマンド配信後も639名と多くの方にご参加頂き、無事に全日程を終了することができました。これもひとえに、会員の先生方、ご講演ならびにご司会を頂きました多くの先生方のご協力、事務局や共催頂きました関係者の方々のご尽力、ご支援によるものと心より御礼申し上げます。

私にとって、日本超音波医学会は肝臓学を志し、肝臓学会とともに最初に入会した思い出の深い学会でキャリアの中心的存在の学会です。ここまでキャリアを積んで来ることができたのも本学会のお陰であり、ご指導頂きました医学、工学の多くの先生方のお陰と深く感謝し、学会開催の機会を頂きましたことに併せて御礼申し上げます(図1)。

## 2. 学術テーマおよび学術集会プログラムへの思い

医師を目指す女性が増加し、若い世代は約30%強が女性になっております。次第に学会で活躍する女性も増加しておりますが、どの学会もなかなかキャリアアップできない状況が長く続いていると思います。74回行われた超音波医学会の中で会長をさせて頂く機会が頂けた女性は、田中幸子先生に次いで2人目です(図2)。超音波医学会は中でも女性の割合が多いのですが、まだまだ男性社会です。日本で



図1 左 神戸ポートピアホテル入り口案内 右 会場内コロナ感染対策



図2 開会挨拶

は、全ての学会、大学また医学分野だけではなく一般社会でも同じと思います。そのような社会背景がある中、超音波医学会は医師、工学、技師など多様性に富む学会であり、性別や専門領域を越え、さらに世界に日本の研究を発信し続け若い世代に繋げる。このようなことを総合的に考え、今回のテーマは、「華ひらく超音波医学一次世代医療への展開」と致しました。テーマの花を木蓮に致しました。木蓮は、学会が開催される春頃に花開き持続性という意味もあります。超音波医学会が今後も持続発展し未来に向かって大きく華麗に花開くことを思いながらテーマと致しました(図3)。同様にSDGsの一環として日本超音波医学会では各領域での繋がりが希薄になりつつあります。超音波という学問の中で

互い理解を深め強調していかなければ発展は無いように思い、超音波造影の分野でご指導頂きました大阪大学名誉教授である別府慎太郎先生に、「日超医のいきざま」と題して、循環器と他分野の連携なども視野に入れたご講演をお願い致しました(図4)。さらにもう一つ、わが国では比較的新しい分野である救急や運動器分野での超音波の有用性が花開こうとしています。これらを踏まえ、本学術集会では、超音波で深く病態診断を行うことと新しく発展している分野に力を入れた企画に注力しました。さらには初学者に一層の興味を持って頂くことと、人体に侵襲の無い超音波を医療に大いに活用して頂くための企画を試みました(図5)。ただ、一つの心残りは先人達のテクニックを少しでも継承して欲しいと考え、多くのハンズオンセッションをレベル毎に企



図3 学会テーマとテーマの花 木蓮



図5 企画の1つ POCUS



図4 別府慎太郎先生 特別講演



## 日本超音波医学会第94回学術集会

概要 広告 受信箱 お知らせ

ホーム 投稿 レビュー ショップ

### 動画



祝キッズセミナー一般公開のお知らせ祝...  
2021/06/18 · 再生314回



図6 SNS キッズセミナー おでんエコーを見る

画しましたが、新型コロナウイルスの影響で叶わなくなったことです。講演プログラムはコロナ禍になる前に企画し崇拜する畠二郎教授、平井都始子教授、秋山いわき教授にコアメンバーになって頂き超音波を使って病態を探る企画、超音波画像と病理画像を推測する企画を行いました。残念であったのはこれからの世代をになう子ども達へむけた情報発信ができなかったこと、基本操作を医師、技師の立場で教えて頂く企画が実施できなかったこと、沢山ありますが、次世代の素晴らしく有能な会員の先生方に未来を託したいと思います。

### 3. SNS 活用

私は還暦を過ぎ SNS などには疎いのですが、コロナ禍もあり否応なしに Web などに頼る状況が2年近く続きました。肝臓学会キャリア支援委員会の若手ワーキンググループの優秀な先生方と相談し SNS を使って学会内容や学会の魅力などを発信すれば良いのではということになり、教室の若手やコンベンションの方々、日本肝臓学会の関係の方々特に大阪医療センター消化器内科の田中聡司先生の多大な協力を得て第74回日本超音波医学会の Facebook と Twitter を開設致しました。何度となく発信を失敗しながら皆様のご協力により、日本超音波医学会の各地方会の先生方への拡がりもその後に見て取れ

## 日本超音波医学会第94回学術集会

概要 広告 受信箱 お知らせ

ホーム 投稿 レビュー ショップ

### オンデマンド配信延長のお知らせ

皆様からの御要望にお応え... もっと見る



図7 オンデマンド配信

最初に開始して良かったと思います。これまで、言葉すら知りませんでした。所謂バズったツイートは、元々キッズセミナーで奈良医大の平井都始子教授が企画をされた「おでんを超音波でみる」です(図6)。YouTube での発信も行ったお陰で会員以外



図8 会長講演と司会の田中幸子先生

の先生方にも超音波というものを知って頂くきっかけになったものと自負しております。オンデマンド配信には録画編集作業がつきものです。予算の関係もあり全てのプログラムを録画することは叶いませんで、この点に関しては開催前から多くの批判も頂きましたが、ここ数年間の傾向を考慮し各分野で平均し80%から100%のオンデマンド配信を行うことができました。特にライブイベント中の方々には周囲に遠慮すること無く勉強できる点はコロナ禍での発見であったと思います(図7)。

#### 4. 会長講演

「超音波から病態・機能診断への道のり」とさせて頂きました。画像は単なる診断を超えて疾患や病理と直結し、病態を考える上で極めて重要であると考えてまいりました。私自身は消化器内科医ですが、医師になった当初まだC型肝炎が解明されておらず、非A非B肝炎と言われていた時代、多くの肝がんの患者さんが見つかるものの、生存率が低い時代でした。何とか早期発見し治療ができないかと考えているときに超音波に出会いました。当時はリアルタイムに診断できる唯一の画像診断機器といっても良いくらいでした。近年、MRIやCTなど多くの魅力ある診断機器が誕生し若干超音波診断機器の発展が足踏みしていましたが、工学者の努力による機器の改善とコンピュータが高性能化したこと、経静脈性超音波造影剤の発売もあり、診断機能が著しく進歩しました。時間分解能は大きく改善し高フレーム化と探触子の高性能化により超微細血流の検出も可



図9 ハイブリッド開催の現状  
司会者シンポジスト全員リモート参加

能となりました。

私の専門分野におけるトピックスについて述べます。肝臓の組織診断に取って変わろうとしているElastographyや脂肪減衰法は主観的と言われた超音波診断に客観性を持たせ定量評価できる技法です。C型肝炎が治療可能な時代になったため肝がんも減少しているとはいえ、線維化が進展した肝臓からは高率に発がんするため、そのリスクを判定することが重要であり、これらの技法は現在消化器分野における超音波のトピックとなっています。もう一つのトピックは、食生活の欧米化により増え続け世界的にも問題となっているメタボリック症候群の一つである脂肪性肝障害の非侵襲的診断です。肝臓の脂肪化も超音波で定量できる時代となり、肝線維化と同時に測定すれば人口の20-30%もいる脂肪肝の中から効率よく脂肪肝炎へ進展する可能性の高い人を拾い上げることが可能となります(図8)。



図 10 運営スタッフはワクチン接種済みの教室員と超音波センタースタッフ



図 11 運営事務局舞台裏にいる大学スタッフ

## 5. 最後に

先進医療はもちろんですが、特に症例検討や新しい分野の教育的内容に重きを置く会にしたいと様々な企画を致しました。残念なことに一部の口頭発表やポスター発表などの現地での企画を急遽 Web 上で行うことになり、また特別企画など断念せざるを得ないものもございましたが、ご参加頂いた先生方の熱意を感じる素晴らしい発表と活発な討論が行われておりました。今回のハイブリッド開催を振り返り、大会に参加する意義を享受することができました。やはり、自身の研究内容を発表し、それに対する意見を聞き、新しい知見に触れることの必要性、さらには参加者同士のコミュニケーションや、情報交換など現地で直接人とかかわり人間関係を構築していく大切さを改めて認識しました。また同時にオンライン開催のメリットも感じる事ができました。

時間が重なる複数の発表も視聴することができ、また遠方のため来場が無理な人やライブイベント中の方、仕事の都合で現地での参加は難しいけど勉強をしたい方、様々な状況に合わせた参加方法を選ぶことができる、大会後もオンデマンド配信により発表を視聴することができるというオンライン開催ならではの利便性も感じられました(図9)。今回の開催で、これからの学会開催を考える上で私自身も大変貴重な経験となりました。この経験を生かして、今後の超音波医学会の発展に大いに役立てていただければと思います。

最後になりましたが、今回の学術集会在、未来に向かって超音波の魅力を発信すると共に、超音波を通じ幅広い方々と様々な角度から情報交換し、友情を深める場になっていましたら幸いです。学術集會を開催するにあたり弱小教室ではありますが、教室

員，秘書ならびに超音波センターの技師全員で一丸  
となって準備と運営をしてくださいました（図 10, 11）.  
特に西村貴士講師，藤井さやかさんは昼夜を惜しま  
ず運営に努力して協力して頂きました。また JCS

コンベンション，日本超音波医学会の事務局の方々，  
共催を頂きました各企業の方々に心から御礼申し上  
げます（図 12）.



図 12 スタッフとの記念写真